

2018年度 湘南藤沢学会 「研究助成基金」 成果報告書

2018年度日韓農村計画学会交流セミナーでのポスター発表

Land Use Change and the Affecting Factors in the Hilly and Mountainous Area -A case of Study in Kugino, Minamata

慶應義塾大学 総合政策学部 4年 境翔悟

1. 活動日程・会場

日程：2018年10月11日（木）～13日（土）

会場：Rural Research Institute（韓国、安山市）

2. 活動の目的

本活動では、本年度10月に韓国で開催される「2018年度日韓農村計画学会交流セミナー」において、水俣市久木野を対象に行ってきた調査研究の成果のポスター発表を行った。本活動の目的は、「Land Use Change and the Affecting Factors in the Hilly and Mountainous Area —A case of Study in Kugino, Minamata」の題目でポスター発表を行い、中山間地域における土地利用の変遷に影響を与える要因を明らかにすることで、今後の適正な土地利用配分の指針を示すことを目指した本研究の成果を発信することである。

3. 活動の成果

ポスター発表では、フィールドワークによる調査と、選好度指数という数値指標を用いている点に関して評価できるといった意見がある一方、調査目的や結論に不明確な点や表現があることや、テーブルやグラフといった各パーツが何を伝えているのかということがわかりにくいという点についてフィードバックもいただくことができた。このように、研究目的の不明瞭さを指摘する意見が多かったため、これを活かし、今後の研究においては今一度リサーチクエスションと仮説を明確に定めていかななくてはならないと感じた。

また、本交流セミナーを通して、日本と韓国は農村地域の高齢化、過疎化など抱えている問題に近似性が認められる一方で、それらの問題に影響を与えている要因には違いも感じられた。本交流セミナーの講演においてもその違いは

随所に表れ、特に韓国において提唱された「Rurality」という概念はとても興味深かった。日本では都市地域と農村地域は分けて考えられることが多く、都市計画法などで明確に区分することができるため、このような概念については新鮮に感じるとともに、韓国においてはまだ、農村地域の都市化が進んでいる現状を見て取れた。



4. 今後の展望

本研究は、水俣市久木野を対象に中長期的で続けていくもので、その成果は直近で自身の卒業論文としてまとめる予定である。今後も「フィールドで研究する」というマインドを忘れずに、対象地域と関わり続けていきたいと考えている。

5. 謝辞

本学会参加にあたり、助成金の援助をいただいた湘南藤沢学会に厚く御礼を申し上げます。